

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより私、上田雄一の一般質問をさせていただきます。

何分経験が少ない上に、ベテランの黒岩議員の直後ということで大変緊張しており、非常にやりにくい面もあります。表現や文言に不適切な部分があるかも知れませんが、若さゆえということでお許しください。

もう既に、ほかの先輩議員よりも伝えられておりますように、今回の銃による殺人事件、本当に許せないの一言であります。私も個人的な知人でもありました宮元さんの御冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、事件の早期真相解明を願う一人であります。

早いものでもう12月、1年の集大成の時期であります。先ほどのような悲しい話題もありましたけれども、明るいスポーツの話題も多々ありました。やはり、高校総体に高校野球、スポーツに関するニュースというのは非常に興味深く、当時の印象を鮮明に覚えているものでもあります。

そのスポーツの話題では、佐賀で行われました国体の10周年を記念して開催が始まりました第22回学童オリンピック、この少年野球大会のほうで、武雄市代表の武雄町スポーツ少年野球団の子供たちが武雄市勢としては初の佐賀県大会優勝をなし遂げられました。そして、昨日、3番議員より紹介がありましたように、中学駅伝では山内中学が記事によりますと、陸上部員わずか1名、あとの選手はほかの部活からのレンタル選手という異例のチームでの出場というメンバー構成であるにもかかわらず、わずか1秒差で劇的な佐賀県大会優勝。国体でも個人名はあえて上げませんが、佐賀県代表として武雄市出身の方々が多くを占めた相撲など、市出身の選手が大活躍していただき、新聞紙上でも大変大きく扱われ、スポーツ界では県内でもさらに武雄のPRをしてくれたことと思います。こういったスポーツを愛する子供たち、これからさらなる活躍を期待したいところであります。

それでは、今回私は、スポーツ振興について、子育て支援についての2項目を通告しております。通告に従って、質問させていただきます。

それではまず、スポーツ振興についてですが、スポーツに関連する話題として、先日、市内企業の株式会社井手口鉄筋様より地元への恩返しということで、AEDを合計15個、市のほうに寄贈されました。もうあえて金額は申し上げませんが、本当に頭が下がる思いです。この15個のAED、自動体外式除細動器ですけれども、国内で非常に多い心臓突然死。その中でも特に多いのが心室細動、これ心臓のけいれんによるものということですけれども、発生した場合、早期の除細動、すなわち、そのけいれんをとめることが救命のかぎとなり、そこで使用するのがこのAEDです。武雄市として、今回、このように市民の皆様の熱い思いを寄贈していただいたわけですけれども、この寄贈について市長並びに学校での設置ということも聞いておりますので、教育長の見解とあわせてどのように利用するつもりなのか、

御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

株式会社井手口鉄筋さんから15台AEDをいただいたとき、私が市を代表して光栄に浴させていただきましたけれども、大変うれしいということと、ほっとしたという2つの側面がありました。すなわち、我々ももう中のほうではAEDの設置をすべきだと、しようという話の中でありました。そういったことで、市民の、一市民、一企業の方が地元への恩返しということで、こういったお申し出をしていただいたことについて非常にうれしかったのと同時に、これが、これから教育長が答弁されると思いますけれども、学校にきちんと置くと、置いてほしいということで、私としてはほっとしたと。もともと学校には置かなきゃいけない。これは地域スポーツの核にもなるところでありますので、そういったところに置かせていただくと、そういう希望が合致したといったことで安心をし、ほっとしたということと、本当にありがたいという気持ちがございます。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

私のほうから済みません。今回の井手口鉄筋様からの寄贈につきましては、大変感謝をいたしております。今までは、教育施設のほうでは白岩体育館、それから、学校関係では北方中だけの設置というようなことでもございましたけれども、万が一のことを考えますというと、各学校にやはりあったほうが良いという考え方は持っておりましたけれども、今回の寄贈によりまして、それがかなうことになりまして大変ありがたく思っております。

それで、屋内体育館のほうに設置をいたしますけれども、学校の子供たち、先生ばかりじゃなくて、一般開放ということで、社会体育にも使っていただいておりますので、そういったグループ等の万が一のときの対応にも今後生かせるものというふうに期待をいたしております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

このAEDですけれども、やっぱり目の前にもし、もちろん、AEDですので使わないに越したことは一番ないと思うわけですけれども、万が一使用しなければならぬ状況になったときに、考えられるのが使い方等々ですね。それとか、どういう場合に使うのかとか、そ

ういったことをやはり勉強していくことが必要ではないかなと思うわけですよ。その辺について、学校側での対応といたしますか、どのように考えられているか、御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

万が一の場合に備えて、常にそれを使えるような体制をとっていくということが、これは大事なことだというふうに思います。そういう面では先ほど申しましたように、学校の先生方、それから、社会体育施設として使われる方々、そういった方に講習を受けていただく。そして、とっさの場合でもすぐ使えるような体制をとっておくということが大事だと思っております。

各学校のほうでも、今までAEDに関する研修をいたしておりますが、まだ、全校回っているというわけではないようでございますので、今回の寄贈を機にいたしまして、健康課のほうとも協議をいたしまして、社会体育の指導者の方々等も含めたところの研修会、そういったものを計画していきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

もう社会体育とかも対象に入っているということで、非常に安心しているところであります。実は、私ちょうど20年前に、中学3年のころになりますけど、同級生の友人を亡くしているわけです。それこそ心臓停止による突然死だったわけです。その彼はバスケット部だったんですけど、場所は体育館で急に倒れて、当時、先生の献身的な人工呼吸や心臓マッサージ等も一生懸命行われていたようですけど、そのかいなく、弱冠15歳という若さで亡くなりました。今思えば、あのときAEDがあれば助かっていたかもわからんというような状況ではありますから、今回の寄贈は本当に頭が下がる思いがします。市民の皆様の御厚意というか、この場合は井手口鉄筋様なんですけれども、地元への感謝の気持ちから善意で寄贈されて、これが宝の持ちぐされになっては困ると。近くでは、鹿島でももう既に実績が上がったことは、もう新聞報道等でもう皆さん御存じだと思いますけど、全国的に見ても、ちょっと名古屋での話になるとですけど、帰省の際に新幹線ホームで心肺停止状態の男性と、その救命処置をしている女性がおられたそうなんです。その際、もちろん名古屋の駅構内、新幹線ホームということで、もうかなり多くの人々が集まっていたけど、実質その女性1人だけで救命処置をしようとしたらしいですもんね。心臓マッサージの開始から数分後にそのAEDが到着して、その前に1人の男性が救命処置を手伝われて、そのAEDを使って電気ショック

を与えて自発呼吸を認めるまでその場で回復して、10分程度で到着された救急隊員に引き継がれて、その方は助かったそうです。その救助を途中から加勢された方というのが、海上保安大学の職員さんということで、そういう勉強をされている方にもかかわらず、やっぱりその実際の現場になると、やっぱりかなり動揺したということが記事に載ったわけですね。もし、そういう市民の皆さんの前で、このような緊急事態で同様の行動をとれるかと、本当にわからんと思うとですよ、やっぱり人の命やっけんが。やっぱりそういうときに、いざというときに適切な対応をとることができるよう、もうぜひその体制づくりというのは必要かと、ぜひお願いしたいと思います。

それでは、ちょっと違う話題に入りますけれども、ことしのスポーツ界で佐賀北高の優勝とか、国体等々、国体で大活躍された相撲の武雄の代表の方、皆さんさまざま九州大会レベル以上の大会で、武雄市の方が出場して、活躍を大いに見せていただいたわけで、これも私は武雄のPRにつながると思うわけです。今のそういった大会に出場するための補助金、助成金ですね、この辺のルールがどういうふうになっているか、まず御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをしていきたいと思います。

ただいまの御質問ですけれども、うちのほうに基金がございまして、スポーツ振興基金というものでございます。この分につきましては、旧山内町で設置をされまして、合併後も引き続き現在に至っているところでございます。

この基金の目的ですけれども、目的につきましてはスポーツの普及、スポーツ団体の育成及び活動の促進を図る。それをもって社会体育の振興を図るものというふうになっております。この基金の運用についてでございますけれども、運用につきましては果実運用型ということで、スポーツ講座、あるいは体育の指導の講習会等の開催など、スポーツ振興にかかる経費に充てるものというふうになっております。

基金の額ですけれども、基金の額は40,000千円というふうになっています。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

このやりとりは非常に話がつながっていないのかなと。私がスポーツ基金の振興基金はもちろんこの後で触れる予定やったとですよけれども、今、九州大会なり全国大会なりに行くための補助金はどうなっているかというのを聞いたわけですよ。真っすぐそこまで行きんさったけんですよ。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

申しわけありません。再度お答えをしていきたいと思えます。

武雄市の人づくり・まちづくり事業補助交付金ということでございます。この趣旨ですけれども、本市におけるまちづくりのリーダー的な役割を果たす人材を育成するとともに、まちづくりへの積極的な参画を促進し、もつて魅力あるふるさとづくりを推進するため、武雄市人づくり・まちづくり事業を行うものに対して、予算の範囲内において補助金を交付するものというふうになっています。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

今回の山内中学校の駅伝大会への派遣、出場補助というようなことで申し上げますという、補助金の交付要綱がございまして、武雄市立小中学校の対外行事出場費補助金交付要綱というのがございます。

今回の山内中の分については、これを適用いたしまして補助をするということにいたしておりますが、これは対外行事の対象といたしまして、国、あるいは地方公共団体が主催する九州大会以上の運動競技大会、それから、その体育関係以外では文化的なものがございまして、こういったことで対象事業を限定いたしております。

補助の対象人員につきましては監督、それから、児童・生徒というようなことで、対象経費といたしましては交通費、それから宿泊費です。宿泊につきましては、1人8千円以内ということで、補助率は2分の1ということでやっております。

これ以外に、これは一般人も含めてですが、武雄市社会教育関係団体等の対外行事出場費補助金交付要綱というのがございます。この場合は、基本的には対象事業としては、国、または地方公共団体が主催する全国規模の運動競技大会、または文化的コンクールということになっておりまして、補助の対象人員は大会要綱で決めた出場者。それから、補助の対象経費としましては交通費、それから宿泊費等になっております。この場合の宿泊費につきましては、1人10千円ということで、補助率は2分の1ということで助成をいたしております。全国スポレク祭ですか、そういった大会への出場者についての助成については、この要綱を適用して助成をいたしております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど、その補助金の説明を受けたわけですけど、要するに半額、いろんなルールがあって半額までの補助というようになるわけですよ。ちょっと私、そいがかわいそうかなと思うわけですよ。やっぱり選手たちがせっかく頑張って全国大会とか九州大会といった夢の舞台に出場するのに、そいも武雄市代表であったり、佐賀県代表であったりという状態の中で、これ半分ば自費でというのがちょっとかわいそうかなと。せめて選手の分ぐらいは全額補助してあげるくらいのことできんのかなと思うわけですよ。もちろん、私個人的にも 個人的にじゃなかですね、そういう声があるとですけど、そいでも足らんという声が多々あるわけですね。結局、選手の方がもちろん、今、部長の答弁にありましたような一般の社会教育団体等の話だったらまだいいかなと思うんですけど、山内中学校にしろ、今回の駅伝にしろ、やっぱりその選手たちって子供たちですもんね、中学生の子供たち。もちろん、親として応援したい気持ちというとももちろんやっぱりあるし、心配な気持ちというともあると思うですよ。何よりやっぱり選手たちがその夢の舞台に行って力を発揮するためには、やっぱり応援というか、皆さん随行者も必要なわけで、もちろん、その気持ちはみんな持っとうと思っとうですよ。

そこで、自分はいろんな条件を整備する必要があるかと思っますけど、選手たちはもちろんその分で何とか全額、選手たちは何とか全額で行けるようにできんものかなと。例えば、さっき企画部長の答弁にもありましたように、スポーツ振興基金を使って応援に行く随行者の人たちは、幾ら何でもちょっと全額というのは無理やろうけど、交通費の何割はそれから補助しましろうとか、そういう取り組みができんものかなと思うわけですよ。スポーツ振興基金も山内からというふうに説明を受けていましたけど、年間40,000千円の利息を運用されているというだけで、特段、その今、現在、これに利用しているとかという実績も特段ちょっと見当たらないようなんですけど、その辺についていかがでしょうか。御答弁願っます。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

ただいまの御質問でございますけれども、現在のところ2分の1補助というふうなこと、全額子供たちについてはできないかというようなことでございますけれども、当市といたしましても、幅広く多くの子供たちに、そういうふうな条件をいたしてやりたいというふうに思っますので、2分の1、現状のままでお願いをしたいというふうに思っます。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

幅広く補助をしていってやりたいということですけど、やっぱりその全国大会、そがんし

よっちゅう、しよっちゅうみんな行きようごたあ事例のああとでしょうかね。やっぱりそんなだけのいろんな件数にその補助金は出しよんさつとでしょうか。そこ、教えてください。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

実績の件ですけれども、ちょっと手持ちがありませんので、後で報告させてください、済みません。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

小・中学生の対外行事の派遣の補助金につきましては、たしか800千円ほど予算を計上しとったかと思いますが、大体、それで足っているんじゃないかなというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

さっきの800千円というのは、小中学生対外行事出場補助金の分ですよ。さっき企画部長から答弁あったスポーツ振興基金40,000千円あるわけですよ。その40,000千円の中から例えば、年間1,000千円なりの運用をして、十分そういうとに補助してやる分はよかっちなかなかと私は思うとですよ。スポーツ振興基金の条例にも、もちろんずっと今、説明されたようにスポーツ講座の開催とか、講習会の開催とか、運動会、協議会その他の体育指導のための集会の開催とか、第2号に掲げるもののほか、スポーツ振興に関することと、やっぱり選手が全国大会に行くというのはスポーツ振興にもつながることじゃないかなと思うわけですよ。そういった補助はスポーツ振興基金を運用して、その分で補助を行っておるという考えは十分寄与するものであると思って、よその自治体の事例も調べてみたところ、結構いろいろところで、スポーツ振興基金から各種団体であったり、個人であったりということに補助がありよるわけですよ。具体的には、北海道の伊達市とか、青森の黒石市とか、福島県の浪江町、茨城県の常総市とか、そういうふうにスポーツ振興基金を出場するための助成に使っている自治体というのは多々あるわけで。この場合ももちろん、選手のみでなかつ当市と同じく半額の助成ではあるわけですよ、よその自治体もですね。それで、なかなか保護者のほうとか、応援のほうとかにはないわけですけど、今の武雄市はスポーツ振興基金からは一切それは出しよらんわけでしょう。よそのとももちろんそこから半分出していますと。ほかのずっと事例を見つけると、こっちからも実はこっただけ出ていますとかということのあるかもわからんばってん、ちょっと私も時間の都合上、そこまで探さきらんやったけん、本当に申しわけなかなと思いとですよ。やっぱり、何というですかね、そういう振興

基金を使って、その分の残りの半分を埋めてやるとかというような取り組みというのを考えられんもんかなと。

例えば、今回、駅伝は団体競技ということもあって、タオルを用意され販売されて、その分で軍資金を用意されたと。ちょっときょう、タオルを持ってきたけんがちょっと御披露したかたですけれども、私もやっぱりスポーツする人たちは応援すつとやけんですね。もうぜひ、私も買わんばと思うて、こういうとを買うたわけですけれどもね。(現物を示す)団体競技ならこういうことも可能と思うとですよ。

やっぱりみんなで、例えば、今回の山内中学校はタオルやったり、ほかの話で行けばジュースを売ったりとか、よそのそうめんを売ったりとか、そういうふうにして、みんなで団体やっぎ、みんなでそがんでしょってというふうにでくっかなと思うばってん、駅伝とかそういう競技じゃなくて、例えば相撲とか、そういう個人競技になあぎんた、ちょっというぎ、その個人だけですもんね。その人たちは結局タオルば売ろうってしても、我が名前ば入れたタオルば売ってさるくわけにもいかんしですね、大体わかんさつですね。それとか、個人となるとなかなかほかの人たちにも寄附をお願いしますというようなことというのは、なかなか「こいば買うてください」と言いにつか部分もやっぱりああとと思うとですよ。

それで、個人競技でいけば、例えば、練習中も全国大会行って、九州大会行って結果を出そうと思うたら、その分でやっぱり試合前にアップをせんといかん、1人でアップができるようなもんやったらよかばってんが、そいこそさっきの相撲ですたいね。やっぱり試合前にぶつかりげいこばせんばいかんて。そいぎ、やっぱり控えの人間も欲しか。指導者の人たちもおんさろうばってん、やっぱり子供たちが力を発揮するために、そういう人たちもやっぱり必要かかなと。やっぱり、せめて選手たちの出場する際の補助金、今回で言えば、小中学生対外行事出場補助金はその分を出していただいて、もちろん今後ですよ、スポーツ振興基金からその分を半額埋めてやるとか、そういう考えはできないものかなと思うわけですけど、ちょっとその辺についても再度御答弁願います。

議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

確かにそうかもしれせんね。全国大会に出る。しかし、その全国大会もいろいろあるわけですね。ほんなごて厳しか予選ば勝ち上がって、ほんなごてきつか思いばして全国大会に行くというのと、もう一定枠があって、それで個人ですけれども、もう全国大会というのはさほど、失礼な言い方になるかもしれませんが、苦労せんでも行かるつと。だから、そのちょっと基準ば1回設けさせていただいて、その厳しい予選に勝ち上がって、ほんなごて武雄の栄光ば背負って頑張るといった方々については、それは私は全額せんばいかんて思うとですよ。そういうことで、ちょっと財源は我々のほうで考えさせていただいて、その条件

をクリアした方、個人の方については全額払う方向で検討します。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

もう本当にありがたい御答弁をいただきました。もうちょっと無理ですねとかと言われるっかと思うて、その次の二の矢、三の矢も考えてはきとったものの、大分縮小できるような感じはしています。

そしたら、続いて施設のほうにちょっと話題を移したいと思います。

武雄市では、本当に競技としてスポーツをする施設がない。拠点としてですね、施設づくりが必要という声が日に日に増すばかりで、私も毎度毎度、この席で言っております。老朽化、または時代に合っていない規格であったりする現状で、ちょっと話は横道にそれるかもわかりませんが、横道それんでよかとか、ごめんなさい。

野球場のことにに関して、ちょっと提案をしたいと思います。市内の球場が2つ、武雄町に白岩球場、そして、北方町に北方サンスポ球場と2つあるわけですけど、ここのどちらもやっぱり設備が整っておらず、プロ野球の試合はおろか、大学、高校野球などの硬式野球ですね。硬式というと、高校野球の硬いボールですね。硬式野球に適していない球場であることはもう毎度毎度言っていることであります。

昨年の今ごろですか、ちょうど発足しました中学生の硬式野球クラブ、ザスパ武雄と、ここでも御紹介したことあるかと思うんですけど、市内の球場、白岩、サンスポでもどちらでもバッティング練習できんわけですよ。有田町にある赤坂球場までとかに、わざわざ足を運んでそこでバッティング練習をしたりとかしておられるわけです。硬式野球をしている子供たちとか、また、その保護者の皆さんには、もう武雄にも硬式対応の球場があればなという思いをさせているわけで、もう大変申しわけないなという気持ちさえあります。

その赤坂球場ですけれども、議会での提案で球場フェンスにラバーマットを備えつけるようになっているそうです。これは赤坂球場で選手がファールフライを取ろうとしたときにフェンスにぶつかり、フェンスというのはもうコンクリートですから、そのコンクリートのフェンスにぶつかりけがをされたから、そういうことからだそうです。武雄でそういうことがないかという、もちろん、武雄でも同様のことは起こっているわけですよ。一般の軟式野球でもたびたびそういう危ない場面を見るわけですけど、およそ10年前になる話ですけど、少年野球でも同様のことが起こっております。その彼は、もう高校でエースとして甲子園に出場して、今では社会人クラブチームのエースとして御活躍されるほど運動神経がよくて、本当にいい選手なんですけど、普通の子供ではなかなかそこまで、フェンス間際までファールフライを追っていきける、なかなかかわけですけど、その子はやっぱり当時から運動神経抜群で、やっぱりボールしか見よらんけん、フェンスがどこにあるかってわからんわけで

すよね、実際しよる人たちは。そいぎん、やっぱりそこまでボールを追い過ぎて、フェンスに激突して、余りの激しさに球場まで救急車が入ってきて、そのまま病院まで運ばれたような状況だったと。

その当時の指導者の方の話によりますと、もう行くなって叫んだときにはもう遅かった。球場内にもものすごい「ごっつ」というごた音がして、もうベンチ飛び出してその子の顔見たら、もうものすごくその時点ではれがひどくて、もうどがんでよかかということ、自分たちも教えとる身で、指導しよる身でもうびっくりしたって言いんさるわけですね。幸い、その彼は丈夫だったためかどうか、選手生命に影響するようなけがじゃなかったからこそ、今そういうふうには活躍されているわけですけど、いつまたそういう事故が起こるとも限りませんし、その非凡なセンスを持つ方ほど、その危険性も増すわけですよ。自分の子供がボールを追うときですよ、例えば、ボールを追うときにコンクリートのフェンスに突っ込んでいく自分の子供ば、親として想像していただければと思うわけですよ、もちろん、指導者としてもそうです。これ中学校の野球とかでもなおさらだと思うわけですよ。市民の皆さん、もちろん利用者の安心・安全を確保するために、ぜひ両球場にラバーマットの設置をお願いしたいと思うわけですけど、市長どのように、これについてお考えでしょうか。御答弁願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も、古賀副市長の息子さんも少年野球をやっていました。そのときに、白岩球場で私はセンターでしたので、ごっといぶつかいよったですね。それで、確かに私自身もぶつかってけがをした記憶があります。私は、恥ずかしながら、それから野球の道を離れておまして、こっち返ってくるまでに、それはもうなってると思ったわけですね。ラバーマットがきちんとあって、もうなっているというふうに思いよったです。先ほど議員のお話を聞いて、これはやっぱり何かあってからだと本当に遅いことになりますので、これちょっと範囲はまた考えさせていただいて、防護マットについてはつける方向で考えたいというふうに思っております。

いずれにしても、体育施設の整備についてはちょっと私が答えるには、教育委員会の場がありますけれども、ちょっと私も一経験者として、それとやっぱりその市民の安全・安心、特に子供たちの安全・安心を守るという観点からは、これはぜひやらなければいけないというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

教育委員会としても、ぜひそういった施設があればというような思いはございます。市長のお気持ちを受けまして、検討したいと思います。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当ありがたい御答弁ありがとうございます。もう来年、前回、これまでの議会でも御説明しておりますけど、高松宮杯、これは一般の野球ですけど、B級の全国大会の会場にも白岩、サンスポ、両方ともなっとるわけですね。施設の不備は幾つも指摘されとった経緯もあって、その中にもラバーフェンスの設置というのがやっぱり要望は上がったわけですよ。ただ、残念ながら、ずっと来年度の話を開くと、来年度の当初予算にも財政難のためか、必要最低限の分しか要求されておらず、ラバーフェンスはそれには載っくらんやったわけですね。もうそいけん、何やそりゃと思っただ気持ちはあったとですけど、その内容を見とったらずっとプレーに支障を来すような泥とか、その辺ばかり予算化されとって、ちょっと言うぎん、今の施設、そこまで、泥まで全部あいして入れんぎ、まともなプレーができんというようなことになっとつとかなという気持ちもちょっとあったわけですけど。とにかく、今ラバーフェンス当たり前という時代でもう言うていただいて本当にありがたいと思います。

ただ、私、ラバーフェンスも部分というような答弁をいただきましたけど、部分に限らんで、ちょっと言うぎ、外野も全部入れて、広告収入とかを取るような方法をとってみてはどうかなと思うわけですよ。市長の具約にもネーミングライツの活用とかというのもあったわけですね。そういうPFIの事業の一環にもなるかと思えますけど、佐賀市営球場ですね。通称ブルースタジアムですけども、これ結構外野に広告が入って、その分で収入を得てというような段取りをしよんさるわけですよ。もちろん、金額等の兼ね合いもあるでしょうけれども、向こうは高校野球の夏の予選、春の選抜の予選とかテレビ中継がつくほどの球場でありますから、その辺の兼ね合いはあって、外野の一区画150千円とかというような金額ですけど、武雄じゃちょっと幾ら何でもその金額は取れんという気持ちもあるとですけどね。そういうふうな金額を使って、補てんしていくような段取りをとれば、全部ラバーにしてもいいんじゃないかなという気持ちがあります。武雄の土地柄とか、人口とか、その辺もよく考えないといけないかなとは思いますが、できれば、ぜひこのオフシーズンにも何とか取り組めんかなという気持ちがありますけど、その辺いかがでしょうか、御答弁願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

防護マットのお話が出ましたので、ちょっと私が聞いている限りの予算を申し上げますと、

まず、内野から外野、門扉までが約4,400千円で、内野から外野、これはほとんどすべてになるかと思えますけれども、これは10,000千円を超えます。いろいろあるけんですね、私が少なくとも聞いているのはこういう状況にあるわけですね。何を申し上げたいかと言うと、先ほど部分的と申し上げたのは、これだけちょっと予算がかかるということで、ちょっと本当に必要なところにちゃんと防護マットをしようという意味で、けちるとかじゃなくて、本当に必要なところをやるといったことで申し上げた。

さっき、ネーミングライツの話が出ました。これも我々の中で検討をしていますけれども、果たしてその、例えば、棒をとったときに幾らで来てくんさるやろうかということになると、白岩球場はそれだけの力があるのかなと。本当にネーミングライツをとするならば、白岩球場という名前そのものを、例えば、上田球場にするとか、そういうふうにしなないと、ただ、あそこに広告だけしてもなかなかそれは額にしても多分充足できない。しかも、低い価格やったら来っかもしれんばってんが、とてもとても先ほど申した額の仮に半分であっても充足できんわけですね。そいけんが、もし、あそこですとするならば、球場の名前を、全体変えることを、これはもちろん今までの歴史にもあります。愛着がある方もおられますけれども、それぐらいの覚悟と決断で、やっぱり議会の皆さん、市民の皆さんがそれでいいということであれば、それはネーミングライツにそれぞれのもを出して、そうなってくると、さすがに自分の名前をつけたいとか、自分の企業をつけたいとか、そういった方々はおられるかなと、ただ、額にもなりますけどね。それはそういうふうを考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと私が調べている金額とかなり差があって、私もいろんな業者さんに正式に見積もりとったわけじゃないですけど、いろんな後づけをされている球場を所有の自治体さんにもいろんな、電話なり何なりでずっと問い合わせ入れてみたところ、大体1つの球場で3,000千円ぐらいというようなのが平均的にあったわけですね。そいけんがちょっとこういうことの話をしよったわけですけど。ちょっと正式に見積もりをとられとんさっとなら、そっちがほんなごともわからんにやっていう気もちょっとあつとばってんですね。一応、そういうことで、いろいろ方法はとってみて、ぜひよろしく願いいたします。

それで、施設の宣伝方法について、ひとつまた提案なんですけど、提案というか、今の武雄市のホームページを見る限りで、スポーツ施設のPR、私も常々スポーツと温泉で組み合わせんばいかんって思うと人間やけんですね、ちょっとうがった見方をするんですけど。やっぱりよそのホームページを見る場合も、スポーツっていう文言がその一番表紙にあるか、ないかでも大きく違うわけですね、ぼんとスポーツっていうふうにもた入れるか。それと、なおかつ、今の市のホームページというのは、ずっと順序を追っているんな詳細までついて

いかんばいかんとですけど、その中で、よそのホームページを見る限りでは、やっぱり合宿に行こうかなという気持ちで見たりするわけです。そいぎ、施設の名称があり、その所在地があり、何をできるという今の武雄市の記載の方法ばってんですね。よそのホームページ見れば、まず、球場の写真なり、なおかつ簡単な周辺の地図があつて、ここの球場がここからこんくらいですよって、ちょっと言うぎ、今の住所が載ってるとても市内の人は大体あの辺ねっというとはわかんさるうばってん、ホームページをそういうところまで見てくる人というのは、やっぱり県外の人とか、市外の人たちばかりだと思つてですよ。そいけん、ちょっとその辺をですね、アクセス方法とか、この施設を使って、この旅館が近いですよとか、そういうふうな民間のほうまで巻き込むような形でのPRができんものか、ぜひ御答弁願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

とてもいい御提案をいただきましたね。これに関しては、スポーツというカテゴリーをつくりたいと思います。それで、球場であつたりとか、あるいは体育施設であつたりとか、ちょっとそこに入っていけば、スポーツっていうところに入っていけばもう見れるというふうになつていきたいと思います。確かに、御質問を受ける前にホームページを見ましたけれども、それはやっぱりありませんので、それはひとつ、ちょっとバーナーになるのか、事業者の横のカテゴリーになるのかまだわかりませんが、いずれにしても、それはつくりたいというふうには思っております。

ただ、このときに、ぜひお願いがあるのが、やっぱり役所だけでつくらよつたら、さっきのような金額になるわけですね。だけんですね、ぜひ、そのコンテンツ、内容をつくる時、ぜひ上田議員のその深い知識を、ここに行けばこう行くとか、そういったとのなからんぎ、やっぱり見る人には魅力的に映らんけん。ぜひそれは、議員初め民間の、本当に使いよんさつ人たちのアドバイスをいただければありがたいと思っております。

それとあわせて、市にそういうスポーツというのを置くと、今、検索で結構上位に行くわけですね。ですので、そういった意味からでも市のところに置くと、きちんと置くというのはその検索の上位に行つて、ますます目立つ効果になると思つておりますので、それは最後にしますけれども、きちんとやりたいというふうには思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

私もよくホームページ等々を見るわけですけども、県内でいけば、鹿島か多久がいいか

なと思うとですけど、結構高槻もよかとですよ、スポーツですね。その辺をぜひ参考にしていただければと思います。

それでは続いて、子育て支援の項目に移りたいと思います。

今の武雄に限らず、日本の最大の問題は少子・高齢化であり、中でも少子化対策が本当に急務だと、最も力を入れるべき社会問題だと考えております。これには官でできることと、民でできること、それぞれがあると思いますけど、12月8日付の新聞記事を皆さん御存じだと思いますけど、少子化対策2.4兆円増額、こういう記事ですね。仕事と子育てを両立できる社会的基盤構築のためには、効果的な財政投入が必要と、そしてまた、きのうも4番議員より御説明されておりましたけれども、子育て支援事業に伴う2007年度の予算配分額が700億円に倍増されているって、これこそやっぱり官でできることだと思うわけですよ。だから、もうこれまで武雄市議会においてもさまざまな議論がなされておりますけど、ことし4月24日付の専門審議会の市政に対する提案書の中にも、住みやすい地域づくりについての項目の中に、未就学児の医療費の無料化など、子育て支援の充実ということも記載されております。

私も少子化対策の一環として、子育て支援の必要性を肌で感じている一人であります。これまでの議会でも、先輩議員からも就学前の医療費の無料化をお願いするような質問がありましたけど、そのときの答弁で、ぜひ行いたいけど財源がないとか、ある首長に聞いたところ、正直もうやめたいとも聞くというような答弁を聞き、正直残念でなりませんでした。

先日、その答弁の中で、もし、就学前医療費の無料化を行うとしたらどれくらいの予算が必要になるかという試算をされておられたと思うわけですが、改めてその具体的な金額を御答弁願います。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

3歳以上、就学前の子供たちの無料化に対する財源でございますけれども、試算をいたしました約39,000千円程度と見込んでおります。

議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

1番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。たしかそのときの答弁、35,000千円とかというふうに聞いたかと思いましたが、恐らく県の入院費の半額助成とか、その辺の兼ね合いが出てくるのかなと、での39,000千円ということですよ。

39,000千円というのは、予算の中で、私もちょっと言うたらやりくりできない金額じゃなかとやなかかなと思うわけですよ。確かに、福祉はお金がかかりますし、市民の皆さん、福

祉のための最優先すべき問題だと思うわけですが、市長もそういう答弁を常々なされておりました。そして、よく使われる言葉が、選択と集中とよくおっしゃいます。確かに財政難である現在、選択と集中と、本当にそうだなと思うわけですよ。環境を守るため、そして、市民の皆様の安心・安全を守るためというようにいろんな事業が繰り広げられておまして、どれもこれも必要な事業だということはわかります。そして、どれも住民の皆様の要望から行われている事業でもあると思います。しかし、そういう中で、事業の大小はあるかとは思いますが。大きい福祉に手をつけられないならば小さいところからでもと、例えば悪いかもしれませんが、少額でできることからでも始めるべきやないかなと。

いろいろあるかと思えますけど、苦渋の決断で優先順位をつけなければならない市長の判断も大変だと思うわけですよ。しかし、今、その少子化の時代、子育て支援というのは大変重要な施策であって、財政難だと全部の就学前医療費に対する助成ができないのであれば、例えば、障害を持つ子供たちに対する助成だけでも、すぐにでも行う必要があるのではないかと思うわけです。現に障害を持つ子の親御さんとの会話を御紹介しますと、もうほんてきつかもんのうって言いんさっわけですよ。もうおいの給料じゃやっぱどうにもならん、そいけん、嫁さんにも働いてもらおうと思うたけど、やっぱり週に2日、嬉野の国立とかに通院をせんといかん。また、さらにそれと別に月に2日、佐賀医大まで連れて行かんばいかん。もうそんだけ通院にかかって、それはもう必ず行かんば通院ですもんね。なおかつ、それ以外に風邪引いたり何たりていうごたっ通院も出てくるわけですよ。そいぎ、もうやっぱりそういうとばいろいろ考えよっぎんた、そがん都合よく奥さんにも仕事なかしにやあと。その子をデイサービスとかに預けて、ちょっとそこまで考えようかと思ったけど、やっぱりそういうとにも費用が要って、いろいろてんびんにかけても割に合わんし、子供のためにもやっぱり母親と一緒にいるのがようなかかなって。そいけん、結局、今のところそがんしよっけれども、どがんもしいえんごたっというような内容の話を聞かされました。

障害にもいろいろあるでしょう。ただ、重度の障害をお持ちの方というのは、重度医療のための補助金というのがあるわけですが、問題は重度に該当しないという子供は、ほかの子供ともう完全に一緒なんですよね、医療費を出す分がですね。それはほんとに深刻な問題だと思うわけですよ。

私も調べたところ、現在、市内に身体的な障害をお持ちの就学前の人数というのはちょっとはっきりした人数はわからなかったんですけど、18歳未満の方で22名いらっしやると。なおかつ、精神的な障害を持たれている児童の数というのが、昨年度で6名。せめて、この子供たちだけでも、就学前医療費の助成を行う必要があるんじゃないかなと考えるわけですが、いかがでしょうか。この場合の医療費、推計で考えられる金額としてどれぐらいかかるのかとあわせて御答弁願えればと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私が報告を受けている限りだと、先ほど正確に申し上げますと、重度心身障害者医療の対象にならない障害をお持ちの方であると。重度心身障害者の方には金額は行っておりますので、ちょうどこの境目の方のところをどうするかといったことに関して言うと、もし、その全額を負担するということになるとう間に1,000千円ということですね。

それで、ちょっとこれは財源の問題もさることながら、これはやはり、先ほど上田議員から話がありましたように、余りにもそれは負担をかけているという認識は同じですので、これについては、やはり保護者負担の公平性の観点から、これはぜひ、武雄市において取り上げて、その補助の対象にしたいと考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。ぜひ、そういうふうにしていただきたいと思います。

先ほど、そういうふうな話でしたけど、市長の具約のほうに今度記載されております32番の子育てならば新武雄市と呼ばれるような新たな事業を行い、特に初年度は3人目の児童をお持ちの世帯の負担軽減策を行い、順次拡張を検討しますと。これは平成20年予定というふうにありますけど、ちょっと私、先ほどの一部の子供たちももちろんそうなんですけど、そういう3人目以降の子供たちとか、そういうのをまた考えられんかなと。市長の具約にも、そういったのがちょっとあったもんやけん、どういうことを考えられているかなというのをちょっと御答弁願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的には、私の具約の性格を申し上げますと、政策のメニューを並べたものであると、これについては、手持ちに持っておりませんので、不正確になるかもしれませんが、財政状況を見ながらやらなければいけないと、全体のことを考えながらやらなければいけないということを書いた記憶があります。

そういった観点から言うと、私が具約を書いたのは候補者のときで、こういうふうに市役所の中に婿養子として入って、いろいろ話をするといったときに、果たして市長、3人目出すことが本当に社会的公平性になるのかといったことを、事務方からそういう話を受けた。それはなるほどそうかもしれない。それよりも先ほど上田議員からあったように、本当にお困りの方に重点的に行うべきじゃないかといったことが担当部の職員から私のほうに、そういう注進があったりとかというふうにして、だから、私が書いたときの気持ちと、それと、

今の気持ちというのは若干ながら変わっております。

幅広くやる、3人目をやる。じゃあ、2人目のときはどうなのとか、4人目のときはどうなのっていうのは、我々は行政としてやっぱり一定の責任を持たなければいけません。ですので、これは公約違反って言われるかもしれませんが、それよりはむしろ、先ほど申し上げたようなところに、本当に困っている方、社会的公平性から困っている方のところに、集中的に行うということが、恐らく税金のきちんとした使い道としてはそれは筋なんじゃないかなというふうに思っております。あわせて、3人目の部分というのは今でもやりたいというふうに思っております。

ただ、あわせて、私の具約に書いてありますとおり、例えば、水道料金の引き下げであったりとか、私の思った以上に下げるということになりますので、それであるとか、今後固定資産税の引き下げに向けてもまた議論をしなければなりません。そういった形で、今、我々ができる範囲、例えば、税金とか料金とか、基本的には下げる方向にやっぱり向かいつつありますので、それはある意味、財源を伴う話ですので、むしろ、選択と集中、あるいはスクラップ・アンド・ビルドということになると、やはり、我々としては限られた財源の中で、そちらのほうにやっぱりシフトしていかなくちゃいけないというふうに思っております。そういう意味では、順番からすると、私が具約で申し上げた3人目から負担を減らす、その負担の割合はありますけれども、それよりは、先ほど申した本当に生活費、ライフラインとして根差している、例えば水道料金だったりとか、あるいは本当に払わなくちゃいけない固定資産税とか、そちらのほうをちょっと優先的にさせていただければありがたい。

最後にしますけれども、向こう3年間で財政破たんが訪れるかもしれないといったことに関して申し上げます、まさに、それは選択の問題として、今、私はそちらのほうに、先ほど申し上げたようなライフラインであるとか、生活に直結したところを下げるところに、やっぱり優先的に意を用いたいと、このように考えております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

納得するような、しないような難しいところではありますけど、私は就学前の医療費をただ無料にすればよかていうわけじゃなかと思うとですよね。私を含めて、親のモラルとかというのがよう最近よくどこでも聞く話であります。医療費の無料化ではなくて、例えば、今無料化をなされている自治体が県内では5市町あるわけですね。白石とか神埼とか上峰とか、そういったところがあるわけですけど、今まで神崎市も無料にしとったけれども、ことしの12月議会に自己負担を月額500円にするという改正案を提出される予定と聞いておるわけです。

そういったように、ある程度の基準を持って取り組むことが必要じゃないかなと。例えば、

乳幼児特定医療のように、月額300円にするとか、きのうの4番議員の質問ではありませんけど、妊婦検診を2回から5回にするとか。そういった中で、その就学前医療の件も例えば、回数制限をまず、何回までは幾らですよというようなそういうルールづくりをやって、取り組めることだけでもまずやってみるというのはどうかなと思うわけですけど、その辺もやっぱり難しいわけですかね、財政的に。選択と集中ということで、どこかを切らんといかんという気持ちはもちろんわかりますけど、やっぱり今、少子化で何かやっぱり策を打たんと、官でできることはやっぱり官でやっていただきたいなという気持ちがどうしてもあるわけですよ。それを望む声というのものすごくありますので、もう一度最後の御答弁願います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は、やると決めたらやる、それが私の政治的信条であります。しかし、考えていただきたいのは、これ前も申し上げたかもしれませんが、ある政策を打つときには、ある効果を上げなきゃいけない。これは先ほど少子化、先ほど就学前の治療費のことにに関して申し上げますと、それをちょっと無料にするか、ちょっと一定条件をつけるかは別にして、これは何のためにやるのか、何のために。私はこれをして、これは議員と見解が違つかもしれませんが、これをやったからといって、少子化対策には私はならないというふうに思っているわけですね。だから、それは少子化と、これはある意味ちょっと、私は別問題だというふうに思っております。これはそういう児童をお持ちの親御さんたちの負担軽減になるという、それは理解はしています、もちろん。だけど、これが少子化の対策につながるかといったときには、それはちょっと私は疑問だなというふうに思うんですね。

それともう1つが、財源がさきの質問でもありましたように、妊婦さんが行かれてというのは基本的に、それは厚生労働省がもうこれやると、財源を用意して基本的にもう通達まで来ていると。これについては、我々としてもそれはすぐのれる。しかし、今回の場合は先ほどフェンスの話も出ました。あるいは全国大会で行くという話という、我々は本当にもう親身を削るぐらいの、本当に清水の舞台から飛びおりるぐらいの覚悟でここで申し上げているんですね。それで、もし財源があったらそれはぜひやりたいというふうに思っております。交付税がこれからどうなるかもわかりませんが、今、我々が考えなければいけないのは、効果があるものについてはきちんとそれはしなければいけない。それともう1つが、先ほど話がありましたように、重度心身障害者の、ちょっとひとつ入らないけれども、ここは何とかしなきゃいけない、社会的正義の観点から、これはやらなきゃいけない。ですが、先ほど話があったように、ちょっとそれからすると、やっぱり財源の裏づけがきちんとないものについては、なかなか二の足を踏めないというのが、今の武雄市の置かれた苦しい現状でありますので、それはぜひ、御理解をいただきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

1 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。効果的な少子化対策が市長の頭にもう既にあるかどうかはわかりませんが、
れども、また、私もそういったところを考えて、またこの場に立ちたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。